

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300497		
法人名	有限会社 喜楽		
事業所名	グループホーム 喜楽Ⅱ		
所在地	佐賀県鳥栖市弥生が丘2丁目6番地		
自己評価作成日	平成22年1月28日	評価結果市町村受理日	平成22年7月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人佐賀県社会福祉会
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 22年4月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、鳥栖市内のJR弥生が丘駅から徒歩数分の距離にある。交通量の比較的多い道路にも面しており、交通の便が良い。幅の広い歩道があるので路側帯と合わせて車道まで距離が保たれ、入居者は安全に往来出来る。健康管理面では、医療機関の協力医があり、しかも二機関で入居者をサポートしている。入居者が楽しく安全に安心して暮らせるように支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

街の商業地域の道路に面しており、明るく活気のある場所で、入居者の日々の生活を支えられている。地域との関わりが持ちにくい環境の中で、区長さんを通じ、役割を持って地域と関わっていくと努力されている姿がうかがえる。同時に商業地域を強みにして、買物等の外出は十分に支援されている。入居者の意思や生活歴に合わせて、安らぎと生きがいのあるホーム作りを実践されている。又、同系列のグループホームとのミーティングや定期的な職員の配置換え等、相互で協力する体制を作られており、一体的な支援を提供する仕組みが整えられている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングなどを通じ、入居者が毎日安心して過ごせるように心がけている。	入居者の生活歴に合わせて安らぎと生きがいのある生活が送れるように日々、努力されている。月1回のミーティングの時等に再確認することで、理念に対する全体の理解を深められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は挨拶程度ではある。	商業地区であり、地域との関わりが持ちにくい状況の中で、区長との連携を図り、花火大会や公園の行事等の地域行事へ参加されている。又、子ども駆け込み110番の対応等、地域の一員としての役割を担われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアを希望されている企業や事業所などの方へ認知症に対し理解や支援の方法など、指導を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報提供交換だけに終わっている。	3ヶ月に1回、事業所代表と区長や家族等の参加で開催され、取り組み状況を報告されている。管理者自身、年中行事に合わせての開催で家族へ参加を呼びかける必要があると考えられている。	家族が参加しやすいような工夫や行政への参加を促す等、関係者が集える会議の開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者や家族に問題などあった場合は連携、情報提供を行っている。	入居者の諸問題等、随時行政に相談し対応してもらっている。行政も実情を把握されており、良好な協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を実施せず、地域との関り持てるようにしている。	施錠はされておらず、日常的に入居者と共に買物に行く等、行動の制限がない自由な環境作りはされている。	身体拘束について、全職員が勉強会等の機会を設け、正しく理解されることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての伝達や、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在は後見制度利用は行っていないが、必要に応じ活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、重要事項説明書の内容に対し、質問があれば随時説明を行い、理解された上での署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の利用、面会時に利用者様の現状などを報告し、必要であれば全スタッフへ伝達し、改善を行っている。	苦情箱は玄関に設置されているが、直接意見を言われる事が多い。事業所側から家族に問い合わせや提案をし、意見をもらうとことで言いやすい関係作りに努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の全体ミーティングを行い、改善点などがあつたらスタッフの意見を聞き、必要であれば改善する。	毎月のミーティングや同系列のグループホームとの合同ミーティングはスタッフ主催で進められている。スタッフは日中と夜間帯の状況報告を管理者にするようになっており、その際にも意見や提案を聞かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自がやりがいのある仕事として自信が持てるように、自由に意見改善が出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われたケア研修などは、カンファレンス時(月1回)に勉強会を行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は交流を行っていないが、今後は心がけていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と、いろんな方向から会話していくことで、不安や要望に気づけるような関係を作る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分に家族と話し合う時間を取る事で、改善できている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要であれば、その家族に合った他のサービスを検討し、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事など、一緒に食べ、家族同様な感覚を持てるように関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会など、状況説明を行い、よりよい介護があれば情報提供をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に親しくされていた方などが面会に来れやすいように環境を整える。	婦人会の時の仲間等、知人の面会があり、時間を気にせずに話が出来るように配慮されている。家族と行きつけの美容室への外出調整等、要望に応じて馴染みの場所との関係継続を支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間は、ホールなどを利用し、みんなで共有できる話題、内容の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去など、今後も相談や家族のストレスを相談できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方や希望は出来る限り取り入れている。必要に応じ、ご家族にも協力を得る。	家族からの情報収集や入居者との日頃のコミュニケーションの中から汲み取られている。スタッフ間ではミーティングの際に思いや意向を共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人の生活歴など把握出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の体調変化など、充分把握出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	複数のスタッフが関わる事で、思い込みや個人の考えなど、集中しないようにバランスを取り、計画作成を行う。	月に1回、全スタッフで計画と現状が合っているかカンファレンスをする事で、本人の状態の変化に細かに対応できる介護計画作りがなされている。	家族・本人の意向は、介護計画に十分に反映されているが、意向を記載出来る欄が見られない。記載欄を設ける等、様式の工夫をする中で更なる取り組みに期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	複数のスタッフが関わる事で、思い込みや個人の考えなど、集中しないようにバランスを取り、計画作成を行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の事情を把握し、出来る限り対応していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、そのように行っている。	協力医療機関からの定期的な訪問診療を受けている。24時間体制での対応も可能である。他医療機関やかかりつけ医の受診は希望があれば、家族で行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師がいるので、連携を取りながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院、ソーシャルワーカーと常に情報交換を行うことで協働出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、そのように行っている。	入居時に重度化や終末期の指針を説明されている。入居期間が長くなると本人・家族の意向も変化する為、随時把握されている。医療機関等、関係者とも連携を図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスなどを利用して、定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練などを活用し、体感している。協力体制も得られている。	年2回、消防署の立ち合いと事業所独自で夜間想定避難訓練を実施されている。区長を通じ、消防団へ呼びかけをされている。同系列のグループホームと日程をずらし、相互の協力で実施出来るように取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴などを考慮した上で、尊重しながら対応している。	事業所の理念にも掲げられているように、その人らしさを生かし、意思や生活歴を大切にした支援を実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを生活の中で常に取り、思いを表出しやすい体制を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に、業務を変更出来るように毎日のカンファレンスで行動を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みなどを考慮し、声かけし、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを利用者と共に作成している。 利用者の好みに応じ、準備片づけを手伝ってもらっている。	買物の前に献立を決める日を設けており、希望を聞きながら献立作りをされている。食事の準備(野菜の皮むき等)や片付けは出来る範囲で参加されている。ホットケーキ等のおやつ作りも楽しく取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に水分量が少なかったりすれば記録し、継続的に観察出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、義歯管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、記録を行っている。	入居者ごとの排泄を記録し、排泄パターンを把握されている。一人ひとりに応じたトイレ誘導のタイミングを図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムを把握し、個々に応じた予防、処置を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯を決めている。 人員と安全性を重視している。	1週間のうち4日間を入浴日とし、その中で、入居者の意向を取り入れた入浴支援が提供されている。人員配置を調整し安全性を高める為に入浴日を決められているが、入浴日以外の対応も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴に合った寝具など調整し、変化が出ないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬状況をファイルし、常に介護者が把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に役割を自然に行っているが、利用者の状態で変化している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力が必要な場合、希望を伝え、実施出来る調整を行っている。	商業施設には恵まれた立地であり、買物と一緒にいく等、日常的に外出を楽しんでいる。事業所の裏通りを利用し散歩にも行かれている。本人の希望に応じて、家族にも協力を得ながら外出されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持たせていない。 預かり金で利用者の希望の買い物を一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や、行事などが感じられるようにしている。	ホーム全体が明るく温かな雰囲気である。商業地域の道路に面しているが、混乱をまねくような音や光等もなく木の温もりが感じられる快適な空間で過ごされている。季節感が感じられる壁画や行事の写真等が飾られ、楽しい演出がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	いままで使っていた家具などを持ってきてもらい、自宅との変化が少なくなるよう配慮してもらっている。	事業所から提供する家具は最小限にとどめ、マットレスや調度品等、今まで使っていた物を持ち込まれている。使い慣れたものを活かして安心できる環境作りに努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別的には出来ないが、全体を通して工夫している。		